

# 技と心でつながる、絵屏風親類の輪

滋賀県下あちこちで展開されているふるさと絵屏風仲間を、ふるさと絵屏風提唱者の上田洋平氏は“絵屏風親類”と名付けておられます。私たち山内ふるさと絵屏風グループにも絵屏風親類がいます。こちらが一方向的に“親類”と思っているだけでも咎められません。そして、同じ甲賀市内でも新たな親類ができつつあります。

それが、甲賀市甲南町竜法師地区の有志の方々であります。平成28年度から製作にあたる相談を受けてはいたのですが先日「息詰まったので、指導を仰ぎたい」との電話。聞けば、現在有志9名さんにより、地域での聞き取りはすでに終えられ、絵地図に落とす地域のストーリーの話し合い、大きな紙への下描きが済んでいる様子です。ここは、わが山内の絵師さんたちの出番と3名の山内絵師さんと車で30分、竜法師地区に出向きました。もちろん、山内絵師といっても、まったくの素人、でも待ち構えている竜法師地区の方からすれば偉業を成し遂げた先生であるわけです。「どうやって清書紙に転写するのか」「絵の具の使い方」「季節の描き方」等。出向いたメンバーは、山内地区で初年度に手探りで描き上げていただいた同士の3人、(本当は4人だが今日は3人)、道と川、小集落との折り合いに困ったこと、竜法師地区でも下書きは2枚目とのことであるが、山内でも何枚も描き直したこと、東西南北、春夏秋冬をどうするかをみんなで相談したこと失敗談も踏まえた製作のアドバイスと交流の時間をもちました。



山内絵師たちに、竜法師の人たちから、絵図のストーリーが語られます。昭和20年代の竜法師は伊賀街道がメインロード、屋号のついた店もたくさんあり、子どもころに遊んだ寺やお宮さんも描かれています。山内とはまた違った文化です。『昭和一桁の方々がおられるうちに描きたい』『竜法師独自のモノが作りたい』との熱い思いは同じ、そして「本当にできるだろうか」との不安や焦りは製作したものしか味わえない気持ち。「ここまで出来たら、6割はできたと同じ」「みんなでワイワイと創り上げられたのはすごいことですよ」「何かあったら聞いてください、やってきますよ」「出来上がりが楽しみです」と激励する山内絵師たち。自然な形で、共鳴し合うやり取りが、実はとても尊いことなのかなと見ていて感じました。

そういや、私たちも製作する前には、草津市の矢倉地区の河崎さまや山本さま、安土町の老蘇地区の川瀬様には、手ほどを教えていただき、大変お世話になってものです。

それから、6か月間、竜法師地区の方々は、みんなで集まり自分たちの記憶にあるふるさとを形にする作業が続けられます。私がしたことは差し入れをもって、おしゃべりするだけなのでした・・・

そして、翌年1月末連絡が入ります。「2月に行う(山内エコクラブ主催の)絵屏風フォーラムに、完ぺきではないが展示できそうだ」との知らせ。到底間に合わないと言われていましたが、前倒しで作業を進めていただいたようでした。



そして、絵屏風フォーラム当日に無事会場へ搬入。甲賀市水口町で行われた絵屏風フォーラム(県内 14 地区絵屏風大集合)に見事展示いただくことができました。

「完成、おめでとうございます」の喜びは、まるで親類に子どもが生まれて、「良かったな～おめでとう」の感覚とどこことなく似ているのかも。

ふるさと絵屏風には、大きく地域の古老からの聞き取り、製作、伝承の三工程(活動)があり、それぞれに相手がいってその活動は意義のあるものです。その三工程にプラスして製作仲間への支援が新たに生まれました。この支援とは一時的な指示的なものではなく、あくまで仲間意識のなかでの人間的なつながりです。

このつながりによって、竜法師地区はもちろん、わが山内の絵師たちの自己肯定感があがり相互にエンパワメントされたのだと新たな発見でした。

「助けて(教えて)」と言える人がいて、「喜んで!(お手伝いします)」と言える人がいる、こんな地域、社会がふるさと絵屏風の中にはありました。

そして、60年経過した今、また当たり前前に再生する仲間作り、隣人愛、助け合い、「認め・助け・高め合う」これが絵屏風親類、これこそ社会的に“けんこう”な状態づくりなのだとうれしくなります。

6月には、天然のササユリ再生に取り組む竜法師の仲間から「ささゆりが咲いたから鑑賞会に来てください」との連絡を受け、山内の方をお誘いし、鑑賞会に参加しました。

感謝は、お金ではなく“心で返す”、優しく咲くササユリが教えてくれているようでした。今度はササユリ親類の始まりでしょうか。

「住み慣れた地域でやりたいことをする地域の方々へ、体験者がお手伝いをする」ための橋渡し役、ややこしいですが、自分の立ち位置を楽しんでいます。(Ryu)



山内の絵屏風に描かれているササユリ



竜法師地区に咲く天然ササユリ

